

経済野話 (8) 我国経済界の現況に就て

1. 「国難来る」との叫びは、外患問題の生じた時に屢々^{しばしば}耳にした詞^{ことば}であるが、真に我国経済界の現状を審^{つまびら}かに観察する時はその感じを一層深くするのである。

既に朝野の諸名士も我国の財界に就いては、各方面から種々の有益な意見を發表して居られるのであるが、私は之に対しては前節来屢々論じた如く、何うしても国内の物価問題を解決せんが為には先ず金利を引下げの事を要旨とし、その方法として一方通貨の増加を図ると共に、他方在外正貨の売止めを断行し、輸入超過を防止し、国内の産業を興し、輸出を計らねばならないと信ずるのである。

今この時局に対する今までの私の卑見を総括して述べる為に、先ず順序として英米経済界の状況を述べて見たいと思う。

2. 英米先進国に於いてはその時の状況に依り、勿論好景気不景気の別はあるけれども、大体に於いて財界は常に健全なる道程を辿る事の出来るのは、その根本に於いて経済的基礎が確立して居るからである。

蓋し日本人一人の通貨所持高平均は 24 円であるに対し、英米人は 100 円の通貨を所持して居るのであって斯くの如く英米国に於いては通貨が充実して居るからして、金利が安い。その結果として

- (1) 有価証券の利回りは低下の傾向を持って居ると共に、その有価証券の価格は常に昂騰の兆候を保ち、従って国内の財産は増加の勢いに在るのである。

故にその経済社会の信用は増進せられ、取引社会は安全且つ円滑に行われ、また資本が豊富であるから金融関係も従って円満を欠くが如き事は少ないのである。

- (2) 通貨は充実し金利は安いからして、国債地方債の利回りは低下し、その当然の結果として国民の負担もまた漸減的な傾向に立つものである。

而して国の財政は円滑に進んで居るからして、民力も十分に涵養せられ、従

って一度物質的文明の設備を増加し、または文化生活の内容を充実すべき事業を興す場合にも国債または地方債の募集が容易であるからその事業の完成が容易であって、その他一般の公共事業もまた容易に実現せられ国運は愈々発展するのである。

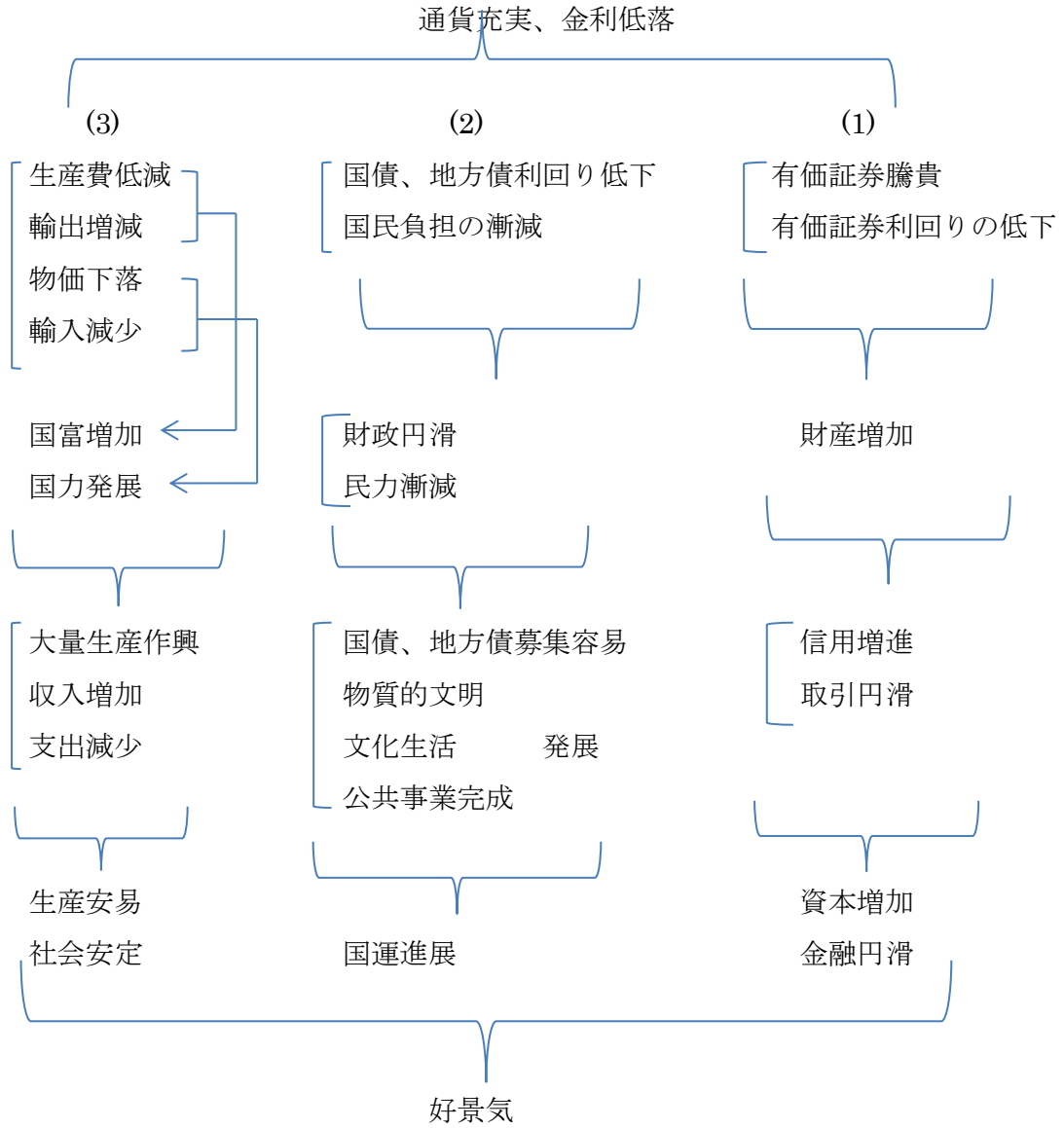
- (3) 通貨が充実し、金利が安いからして、生産費は少なく輸出は増加の傾向を辿ると共に、一面国内の物価は安いから輸入は減少するのである。

之に加うる金利の安いと云う事は機械工業に依る大量生産が行われ易いからして、その収入は増加する事が出来、またその支出は減少するものであって、一面外部的には国富が増進し、国力は愈々発展出来ると共に他面内部的には生活が安易で、社会は常に安定を維持する事が出来るのである。

故に英米の経済社会には一の安定があつて、健全な基礎の上に好況状態を現出せんとするの傾向に在るものであって、少なくとも他国の経済界に比較して、この感じは一層深いものである。

今参考までに之を図解すると次の如くである。

英米経済図解



3. 翻って我国の経済界を見渡すと頗る英米」とその趣を異にし、寧ろ根本的に組織上の欠陥を有するものである。即ち

(1) 通貨が不足し、金利が高いからして有価証券の利回りは宜しいけれども、その反対に有価証券の価格は低落し、従って財産評価は安くなるのである。

故に一般資本は固定してしまつて、信用は氷結し事業の整理も中々困難で、新しい仕事に対する活動資本も不足でその結果、経済社会の景気は悪く、一般社会は不安の状態を免れないのである。

(2) 通貨が不足し金利が高いから、国債、地方債の利回りは昂騰の傾向を有し、之が為国民の負担は増加し、金融は硬塞しその結果国債、地方債の募集は困難となり、物質的設備は充分計画する事が出来ず、各種の公共事業も行き悩みがちとなり、国運は動きもすれば進展を妨げらるるの情勢を示すのである。

(3) 通貨が不足し金利が上がるので、一方国内各事業の生産費は増加し、輸出は減退すると共に、他方物価は低落せず輸入超過の傾向は次第に強くなるものである。

而してこの輸入超過の結果は益々通貨の減少を来たし、金利は愈々昂騰し、産業に依る利益は減少するから、支出は増加し国民の生活は安定を失い、経済社会は不安と不況に襲わるるに至るのである。

以上の如く我国の経済状態は憂うべき傾向に立つものである。之が図解を示せば凡そ次の如くである。

金利不足、金利騰貴

(3)

(2)

(1)

生産費増加・出減退
物価低落せず輸入超過

国債、地方債利回り向上
国民負担の増加

有価証券利回り向上
有価証券低落

通貨愈々減少
金利暴騰

金融硬塞

財産評価減少

産業機械化不能
生産事業激減
収入減少
支出増加

国債・地方債募集困難
物質的進歩行止
各種公共事業行悩

資本固定
信用氷結
整理困難

生活困難

国運逆転

活動資本減少

大不景気・社会不安

4. 之を要するに、我国経済界に於ける根本の欠陥は、金利が高いと云う事であって、この金利の引下げを断行しなければ到底健全な発達は望み得ないのである。之が最善の方法としては、何うしてもこの際通貨の増加を断行しなければ駄目である。

唯ここに最後に付言せんに現在日本に於いて一の通弊とも認むべきは、官民共に不労所得を尊重し勤労所得を軽蔑するの点である。

而してこの傾向は所得税、営業税、通行税等の場合にもその形を表して居る。例えば土地または公債等を所有して遊びながら暮らして居る者に対しては、反って課税が寛大であるが、毎日毎日一生懸命で働いて居る者に対しては、少しの仮借もなく税法の条文通り、最後の一銭まで徴税をして居るのである。

物価に対してもまた同様であって、物価が何から成立して居るかというに、その主なるものは生産原価である。而してこの生産原価なるものは何から成り立って居るかというに、それは利息、労銀、材料、税金、利益金の五者である。

そしてこの中で税金及び利益は別問題として除外して考えるときは、その残りは労銀、利息、材料の三者に帰着するのである。然しこの三者もよく考えると、結局は労銀及び利息の二者である。

故にこの二者が所謂労資問題の分界点であって、一の生産に対し資本家が不労所得を幾程取るか、將た労働者が勤労所得を何程取るかの問題である。

換言すれば労資問題はこの点が天下分け目の決勝点であって、我国の如く利息の高い国に於いては、物価の上に於いて不労所得が多くかかるから、自然に物価が高くなるのみならず、労銀を圧迫し労働者の取り分を少なくする結果となるのである。故に物価に就いてもまた不労所得を尊重する弊が大に表われて居るのである。

斯くいうと、私が好んで労資の紛議^{しそ}を使喉^しすると考える人があるかも知れないが、之は實際動かす事の出来ない議論の根底を有するものであって、例えばここに1万噸の汽船一隻を建造するものと仮定し、その代価が100万円とし、その内

訳を示すと、

1. 資本に対する利子
2. 労銀
3. 材料費

の三者である。然しこの中で材料なるものは主として鉄である。而してこの鉄は何から成立するかというに、之もまた同じく利子、労銀および材料の三者から出来て居るのである。

而してこの場合に於ける材料は何から成立して居るかと言うに、それは石炭と鉄鉱石の二者から組成せられて居るのである。

然し更にこの二者の原価は何から成り立って居るかと言うに、それは労銀と利子との二者である。故に以上の内容を空極まで煎じ詰めれば、この汽船は労銀と利息との二者より成り立って居る事が明瞭になって来るのである。

この理論は汽船のみならず、日用の諸物価その他の物に対しても総て同様である。故に結局物価なるものは、労銀の協調に俟たなければ到底解決は困難なのであって、何うしても資本家が利息を引下げ、不労所得を少なくしなければ物価調節問題は彼岸に達し得ない。この事は敢えてここに今更立証を要しない所のものである。

彼の英米国の利息は 5 歩以内であるが故に、英米で製造せられた物品の代価に就いてその中で資本家が利息を何%取り、労働者が労銀を何%取るかと言う事の統計を作り、日本のそれと比較して見るならば、英米の物価中には資本家の所謂不労所得が甚だ少なく、日本のそれは反対に不労所得が多くなって居る事を必ず直ちに証拠立てる事が出来るであろう。

もしこの線まで物価の調査を進めて行く事が出来るならば、日本の物価の高い原因が全然通貨ないし利息の問題から出発して居る事が明白に分かるであろう。

なお最後に金利が高ければ多くの失業者を生ずる理由をここに付言せん。英米にては普通の利息が 4 歩か 5 歩であるから、如何なる事業に於いても純益が 5 歩以上であれば必ず生産事業として世に尊重せらるるに足るのであるけれども、我国

に於いては普通の利息が約 1 割であるが故に、1 割以上の純益を得る事業でなければ、生産事業として世に成立する事が出来ないのである。

ここに於いて英米よりも日本は事業の数が少なく、従って多くの失業者を生ずる処がある。この例を以てしても、金利の安き事が経済上重要な事が分明するのである。